

原子力の自主的安全性向上の取組(ロードマップ骨格)

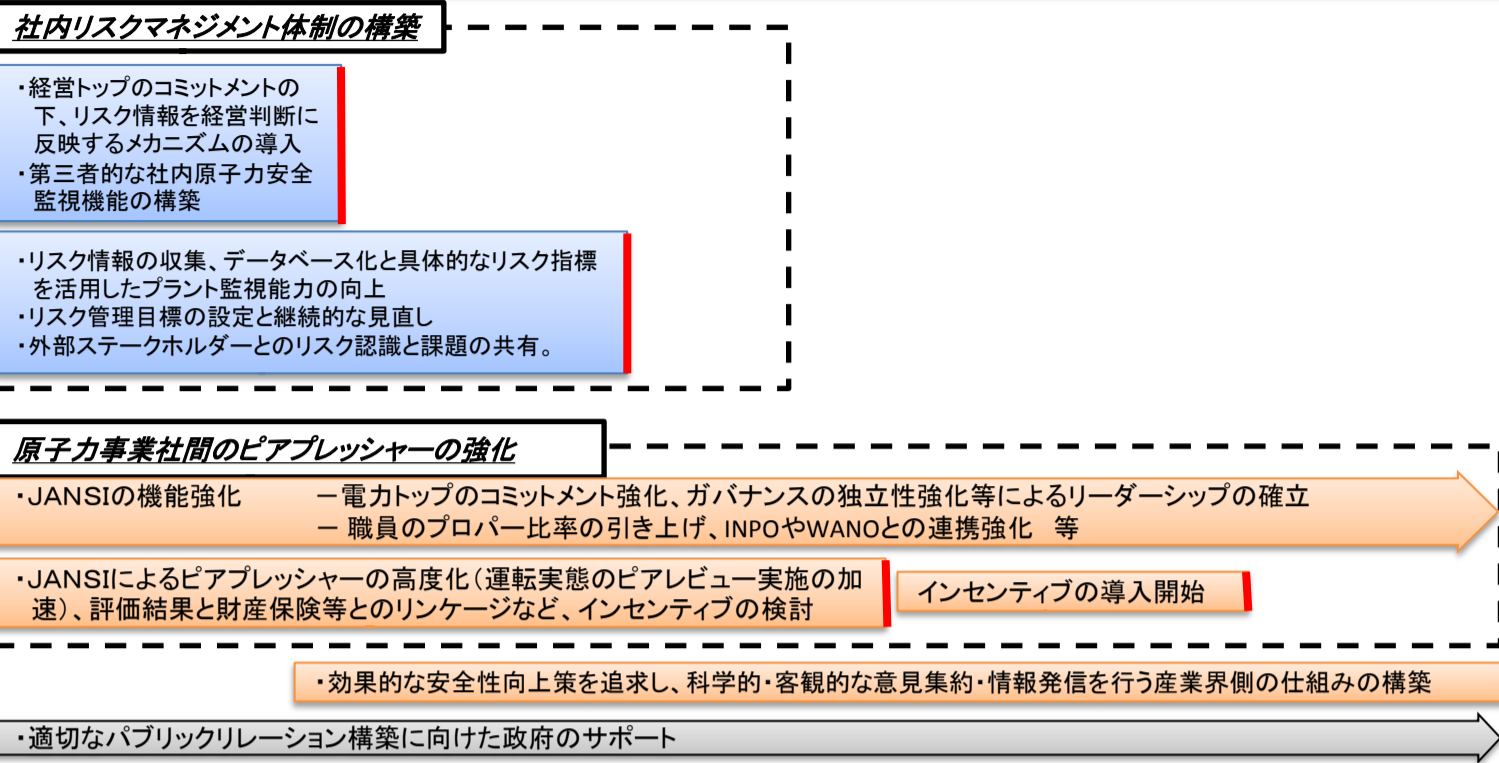
- 原子力産業界共通の取組
- メーカーの取組
- 電気事業者個社の取組
- 学会等の取組
- 政府の取組
- 原子力分野の全体の取組

(別紙1)

世界の原子力安全の向上を主導する立場の獲得という目標に向けた、自律的な枠組みの確立

1. 適切なリスクガバナンスの枠組みの下でのリスクマネジメントの実施

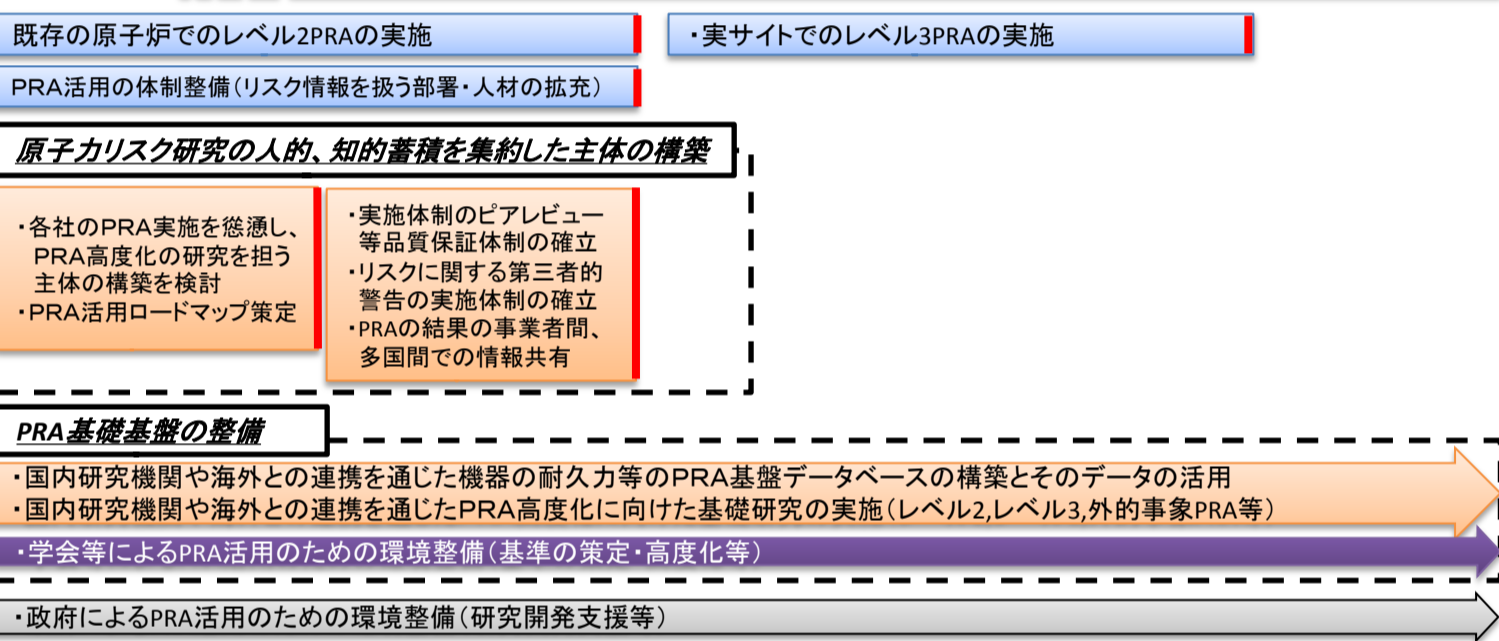
パブリックリレーションを取り込んだ適切なリスクガバナンスの枠組みの構築



2. 東京電力福島第一原発事故の教訓を出発点に実践が求められる取組

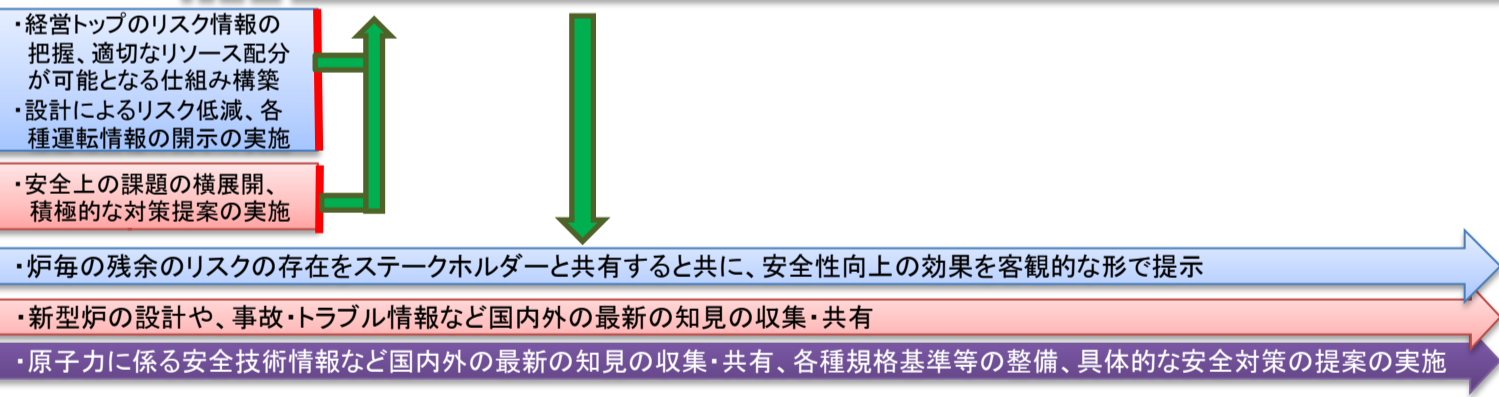
① 低頻度の事象を見逃さない網羅的なリスク評価の実施

外的事象PRAの実施等を通じた適切なリスク評価の実施



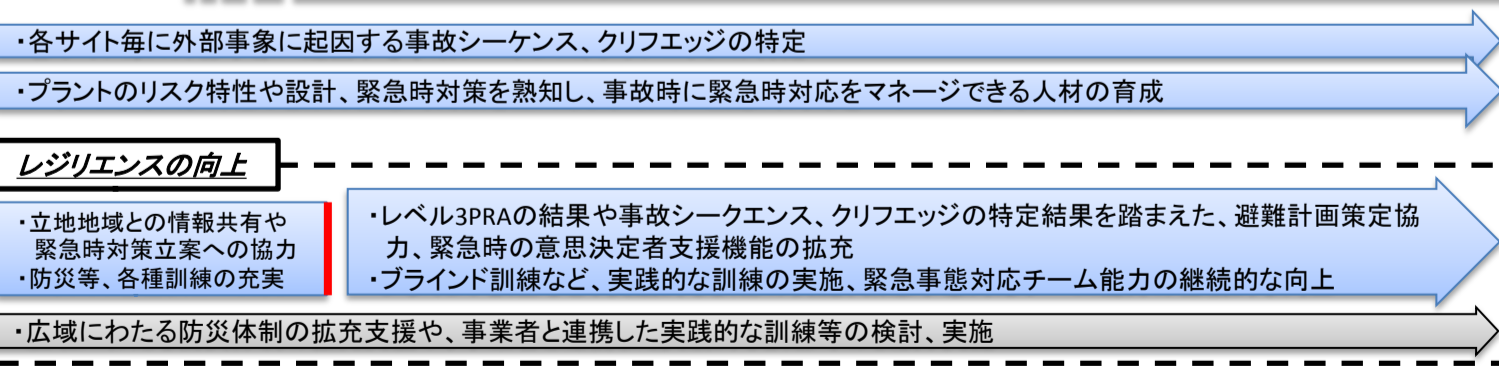
② 深層防護の充実を通じた残余のリスクの低減

各サイトごとの自然環境特性等に応じた最適な安全向上対策の実施

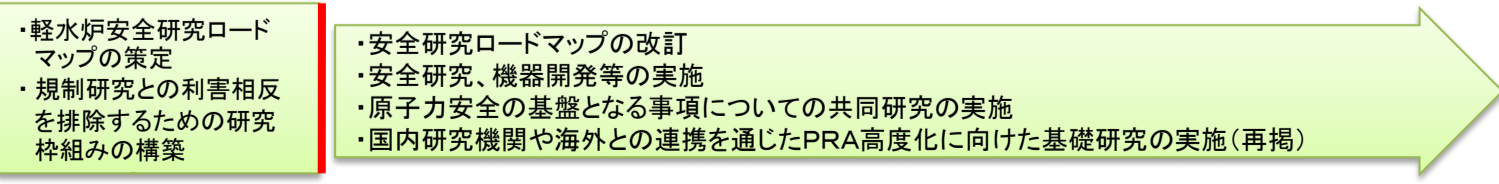


③ 外部事象に着目した事故シークエンス及びクリフエッジの特定と、レジリエンスの向上

万が一のシビアアクシデントへの対策強化



④ 軽水炉の安全性向上研究の再構築とコーディネーション機能の強化



- 上記の安全性向上の取組を着実に進め、根付かせるためには、特に以下の姿勢が求められる。
- ① 批判的思考や残余のリスクへの想像力等を備えた組織文化の実現
 - ② 国内外の最新の知見の迅速な導入と日本の取組の海外発信
 - ③ 外部ステークホルダーの参画
 - ④ 産業界大での人的・知的基盤の充実
 - ⑤ ロードマップの共有とローリングを通じた全体最適の追求